

# 海事イノベーション部会の進め方

- 造船業は、今後も成長が見込まれ、地域経済・雇用を支える典型的な輸出産業として、地方創生とGDPの向上や貿易収支の改善等に寄与するポテンシャル大。
- 円高が是正され、高性能・高品質の日本船への回帰によって受注が急速に回復しており、日本の造船各社が設備投資・増産に転じる中、製品の魅力向上、生産性向上、人材育成を一体的に推進する「生産性革命」により、「造船ニッポン」が復活可能。
- 特に、情報技術の発展により、新しい価値・サービスを提供するIoT/ビッグデータ時代を迎えており、船舶の開発から建造、運航に至る海事産業全体にイノベーションをもたらし、産業全体の効率化、高度化をもたらすことが期待される。
- 海事イノベーション部会では、「製品・サービスの力」、新事業分野を「拓く力」、船舶を建造する「造る力」と「人の力」を高める、海事産業の生産性革命を推進する取組について検討する。

## 【進め方】

海事分科会  
(1月27日)

第1回  
海事イノベーション部会  
(2月3日)

業界ヒアリング  
(2月中旬～3月初旬)

海事イノベーション部会の設置承認

現状と課題、新たな対策

新たな対策とターゲット

- 造船業の現状
- これまでの取組の成果と「強み」
- 日本造船業が抱える課題と今後の取組の方向性
- 日本造船業の目標

- 日本造船業に必要な対策と進め方  
「製品・サービスの力」、「拓く力」、「造る力」、「人の力」を向上させる取組について意見聴取
- 日本造船業の目標設定に関する意見聴取

第2回  
海事イノベーション部会  
(3月11日)

第3回  
海事イノベーション部会  
(4月5日)

施策の具体化・推進

答申骨子案、ロードマップ案の審議  
(予定)

答申、ロードマップの取り纏め  
(予定)

クニづくり、マチづくりをリードする造船ニッポンプロジェクト